

2018 年度 研修開催報告

教育の質保証を実現するために、大学教員の職能開発（FD）の更なる実質化・高度化が求められている。ここでは、首都大学東京FD委員会の主催による、本学の教育理念の共有と着任後の円滑なコミュニケーションを図るために実施した新任教員研修、TAの役割に関する理解や教育補助者としてのスキルアップ等を目的としたTA研修、アクティブ・ラーニングの具体的な手法や実践例等を共有するためのアクティブ・ラーニング手法紹介セミナーの開催結果について報告する。

<新任教員研修>

2018年4月5日 14:30～17:35

1. 趣旨

この研修は、新任教員の不安を解消し、着任後の円滑な教育・研究活動へと導くために、毎年、授業開始前の4月初旬に開催している。当研修の目的は以下の5点である。

- 首都大学東京の大学組織について理解する。
- 首都大学東京の教育活動に関する基礎知識を習得する。
- 授業デザイン・実践のための基礎知識・スキルを習得する。
- 本学の学生相談・学生支援について理解する。
- 同僚とのコミュニケーションを図り、着任後の円滑な教育・研究活動へと向かう。

2. 概要

[開催日時・場所・参加人数]

2018年4月5日 南大沢キャンパス 29名

[主なプログラム]

- 首都大学東京の概要と教育プログラムの紹介
(副学長・大学教育センター長 山下 英明)
- 本学の学生相談について
(学生サポートセンター 教授 渡辺 みさ)
- 事務からのお知らせ
(教務課 教務企画係長 宮本 貴之)
- インストラクショナルデザインに関する講演&ワークショップ
(大学教育センター 教授 松田 岳士)

このうち、学生サポートセンター 渡辺教授による「本学の学生相談について」に関する講演では、若者を取り巻く昨今の状況や、本学の学生の特徴などの紹介を基に、指導に当たる教員が多様な学生とどのように

接していくべきか考える機会を持つとともに、学生相談室の利用方法に関する紹介が行われた。

若者を取り巻く昨今の状況 ～少子高齢化・社会の複雑化

- ・大学受験から就職を意識（親・高校・予備校の手厚い支援、受験情報・受験技術の駆使で受験校を選択
- ・受験科目、ブランド、経済事情等が優先、本人の意向は軽視されがちの場合も...
- ・有効求人倍率が上がっても、求める人材は変わらず
→ 若い人の社会連結の難しさ
- ・児童期・思春期心性を残し、親子密着の学生も多い。
- ・学生支援においても、保護者は大きな存在。
- ・大学受験・就活・婚活と親子共闘は続く...

学生指導・学生対応

- ・学生を理解する機会に多く触れておく（研修会等）。
- ・学生を見て、聴いて...
- ・必要な対応を手短に。
- ・必要な部署に確実につなぐ。
- ・抱え込まない
- ・丸投げしない
- ・たらいまわししない
- ・一部署内の報告・連絡・相談+部署間の連携協働
- ・プライバシーの保護に留意する

学生相談室を利用するには？

- ・学生に学生相談室をお勧め頂くことは無論のこと、
- ・学生の来談が難しい場合、教職員の皆様が学生相談室の連絡を取っていただき、ご一緒に対応について考えることもできます。
- ・お電話でも、直接の来室でも、かまいません。
- ・どうかお気軽にご利用下さい。
- ・まずは、場所の確認にお立ち寄り頂くことも、歓迎いたします。
- ・「教職員のみなさまへ」というリーフレットをご参照ください。

また、大学教育センター 松田教授による「インストラクショナルデザインに関する講演&ワークショップ」では、本学の教員として必要な授業設計に関する基本的なスキルを習得することを目的として、①担当する授業の学習目標を明瞭にしてそれに応じた評価方法を設定できるようになる。②研修内で説明する基本ポイントを反映したシラバスを記述できるようになる。の2つの目標を掲げ、セミナーを実施した。

具体的には、インストラクショナルデザインの理論、学習目標の種類、評価の種類及び能力測定方法に関する講義を聴講した後、各参加者が作成している自身のシラバスについて、授業の達成目標が適切に設定されているか、評価・学習内容が妥当性を欠いていないか等を参加者同士のペアワークでチェックし、どのように改善すべきか議論を行った。



別紙ワークシート1
学部・学科・研究科 _____、氏名 _____ 2018年4月3日

■ 授業の達成目標を見直す
講演1を聞きながら、担当する授業の目標を記入してください。次に、ペアの相手に本紙を渡し、チェックリストの確認欄に☑を入れてもらいましょう。その後、お互いにどのように書き直せば、よりよくなるかを議論してください。

✓ 授業の達成目標

✓ チェックリスト (達成目標)

チェックポイント	説明・具体例	確認	ペアの相手からのコメント
学習目標の種類			
① 言語情報(宣言的知識)	指定されたものを覚える	<input type="checkbox"/>	
② 知能を用いる技能	ルールを未知の事例に適用	<input type="checkbox"/>	
③ 認知方略	学習をより効果的にする	<input type="checkbox"/>	
④ 態度	ある状況を選ぶ/避ける	<input type="checkbox"/>	
⑤ 運動技能	身体を動かす/コントロールする	<input type="checkbox"/>	
目標の記述			
① 学生を主語にしているか	「～を育成する」のは教員側	<input type="checkbox"/>	
② レベルが分かるか	前提科目・前提知識など	<input type="checkbox"/>	
③ 測定可能な行動目標か	「～の理解を深める」では不明	<input type="checkbox"/>	
④ 測定の条件が分かるか	ノートや辞書を使っているのか、グループで達成するのか、個人で達成するのか	<input type="checkbox"/>	

以上

別紙ワークシート2
学部・学科・研究科 _____、氏名 _____ 2018年4月3日

■ 評価の方法・配分を見直す
自らの担当授業ではどのような知識・技能・態度等をどのように評価することになっているか簡条書きで整理してみてください

✓ 何をどのように評価しようとしているのか

・ 相対評価か絶対評価か

・ 評価内容

・ 評価方法

・ 評価のタイミング

✓ チェックリスト (評価・学習内容)

チェックポイント	説明・具体例	確認	ペアの相手からのコメント
成果測定方法の妥当性(内容)			
① 目標の種類と評価方法が一致しているか	目標の種類に合った評価データが収集できるか	<input type="checkbox"/>	
② 授業で学ぶ内容で解答可能	応用問題と範囲外の違いに注意	<input type="checkbox"/>	
③ 重要性と配点が合致	目標の記述と重要性を照合	<input type="checkbox"/>	
信頼性			
① 事前知識の影響が低い	授業を受けなくても知っていること(できること)の影響が大きくないか	<input type="checkbox"/>	
② 形成的評価を行なうか	中間テストなどによるレベル確認	<input type="checkbox"/>	
③ 複数の測定方法か	一発評価になっていないか	<input type="checkbox"/>	

以上

3. 参加者の感想

参加者のうち27名からアンケートの回答を得た。研修全体の満足度について、23名が「とてもよかった」「よかった」と回答しており、研修の目的が概ね達成されたものと考えられる。

[感想(一部抜粋・要約)]

○トラブルを抱えた学生の対処法がよく分かり、大変勉強になった。

○インストラクショナルデザインについて、もう一度学部の教員に時間をかけてFDで行って欲しい。

○大学教員として教えること、環境などについて考える良い機会になった。

[研修終了後の懇親会の様子]



<TA初任者研修>

2018年4月20日、23日、27日 16:20～17:20

1. 趣旨

首都大学東京では、2015年度にTA（ティーチング・アシスタント）制度の改正及び拡充を図ったことから、TAとして教育に携わる大学院生の増加を目指している。毎年4月には、初めてTAとなる院生に向けて、TAの役割や心得を教員が研修し、効果的な活用を図っている。

2. 概要

〔開催日時・場所・参加人数〕計89名

2018年4月20日

南大沢キャンパス（文系エリア）15名

荒川キャンパス（テレビ中継）4名

2018年4月23日

南大沢キャンパス（理系エリア）54名

2018年4月27日 日野キャンパス 16名

〔プログラム〕

○TAの役割と心得 ○TA体験談

○事務手続の流れ

3. 参加者の感想

参加者のうち83名からアンケートの回答を得た。研修を通じて心得や役割について理解を深めることができたと感じている院生が82%を占めた。

〔感想（一部抜粋・要約）〕

○TAも学ぶ姿勢が必要なのだと知ることができた。

○授業風景、TA業務の様子を詳しく知りたい。

○体験談についてスライドの提示だけではなく、映像としても見たかった。



1. TAとは

ティーチング・アシスタント（TA）とは

ティーチング・アシスタント（TA）とは、優秀な大学院生に対し、教育的配慮の下に、学部学生等に対する助言や実験・実習等の教育補助業務を行わせ、**大学院生の教育トレーニングの機会を提供するとともに、これに対する手当を支給し、大学院生の処遇改善の一助とすることを目的としたものを指す。**

出典：「教育振興基本計画」（平成20年7月1日）

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

4

2. TAの役割

TAの4つの存在理由

1. 授業をスムーズに進行させる
2. 教員とは異なる教育効果
3. 授業改善に役立つ
4. 自分自身も学び、成長する

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

7

<TAスキルアップ研修>

2018年11月13日 17:00～19:00

1. 趣旨

首都大学東京のTAには「STA（シニア・ティーチング・アシスタント）」という区分があり、博士後期課程の大学院生に教育訓練の機会を提供している。この研修は、主にSTA及びTAの経験者を対象とし、各々が業務上で直面する問題や課題について情報を共有し、問題の解決策を考えるグループワーク形式による作業を通じて、教育指導力の向上とモチベーションを高めることを目的として開催している。

2. 概要

〔開催日時・場所・参加人数〕計6名

2018年11月13日

日野キャンパス 5名

荒川キャンパス（テレビ中継）1名

〔プログラム〕

- TAはなぜ必要なのか（個人ワーク）
- トラブル事例の解決策を考える（グループワーク）
- グループワークの発表
- 解説、まとめ

3. 参加者の感想（一部抜粋・要約）

- 教える事に対する体系的な知識を得られたことがよかった。
- 教員とは異なるTAの効果について、学術的な知識を用いて説明があり、より理解が深まった。
- 学びが共有できて楽しかった。
- 一人での参加はもったいないと思った。
- 参加者がハイレベルで勉強になった。

達成目標

- ▶知識：TAの必要性と役割を、教員の役割と比べながら説明できるようになる
- ▶スキル：実際に発生する可能性のあるトラブルに対応するための基本スキルを実践できるようになる
- ▶ネットワーキング：TAの間で相談できる関係を築く



対面研修のグループタスク

- ① 実験やグループディスカッション等、複数の学生がグループになって学習する場面において、明らかに参加できていない（馴染めていない）学生がいます。TAとして、その学生、又は他のメンバーに対して、どのような声かけをすれば良いでしょうか。
- ② 担当しているクラスのレベルから考えて、教員の説明が専門的過ぎるため、多くの学生が、戸惑ったりやる気をなくしたりしているのがわかります。TAとして学生と教員それぞれにどのようなコミュニケーションをとりますか。
- ③ 実習や実験を伴う授業において、複数の学生の進捗が遅れています。教員へのタイミングで伝えれば良いでしょうか。また、学生へはどのような声かけをすれば良いでしょうか。



<実際に活用できるアクティブ・ラーニング手法紹介セミナー>

2018年5月23日、9月20日、10月4日、12月14日、2019年3月5日(各回とも90分)

1. 趣旨

2017年度に引き続き、首都大学東京教育改革推進事業(学長指定課題)の取組みとして、大学教育センターとFD委員会の共催で、アクティブ・ラーニングの具体的な手法や授業設計、実践例等を共有するための少人数によるワークショップ形式でのセミナー(全5回)を開催した。

過去に実施したセミナーのアンケート結果やFD委員等からの要望を踏まえてテーマを設定し、全5回ともすべて昨年度とは異なる内容で実施。アクティブ・ラーニングの様々な実践方法の紹介に加え、参加者同士の意見交換・ディスカッション等を取り入れることにより、参加者自身がアクティブ・ラーニングを体感する良い機会となっている。また、2018年度は南大沢キャンパスだけでなく、日野・荒川の両キャンパスでも開催し、学問分野が近い教員同士による活発な議論が展開された。(参加対象は本学の教員のみ。)



2. 概要


[第1回セミナー]

2018年5月23日 南大沢キャンパス(参加者18名)

テーマ:反転授業を始めてみよう!

(講師:大学教育センター 松田 岳士 教授)

反転授業のポイントを「目的別の授業」、「省力化」、「対面授業のコツ」の3つの角度から取り上げ、授業の現状に応じた導入方法について考えを深めた。



2018年度 首都大学東京 教育改革推進事業 学長指定課題
主催:大学教育センター / 首都大学東京FD委員会

2018年度第1回 実際に活用できる
アクティブ・ラーニング手法紹介セミナーシリーズ

反転授業 を始めてみよう!

反転授業は、アクティブラーニングの中でも頻りに紹介される形態であるにもかかわらず、敷居が高いというイメージがあり、導入しにくいと考える先生方も多いようです。実際には、反転授業だからといって、特別なスキルやオリジナルの動画配信などが求められるわけではありません。今回のセミナーでは、反転授業のポイントを「目的別の準備」、「省力化」、「対面授業のコツ」の3つの角度から取り上げて、参加者とともに授業の現状にあった導入方法を考えていきます。
【講師】:松田 岳士 教授(大学教育センター)

- 日時:2018年5月23日(水)16:20~17:50(5限)
- 場所:首都大学東京 南大沢キャンパス 6号館402
- 参加対象者:首都大学東京の教員(非常勤講師も可)
アクティブ・ラーニング、反転授業を実施している有無は問いませんので、奮ってご参加ください。
- 参加費:無料
- 申込方法:下記の担当宛に「第1回ALセミナー申込み」と明記し、5月21日(月)までにメールでお申込みください。
- 申込先:教務課教務企画係 担当:宮本
- メール:kyomu-kikaku@jmj.tmu.ac.jp
- 電話:042-677-2937(直通) / 1035(南大沢内線)

[参加者へのアンケート結果抜粋 / 5段階評価]

選択肢	平均値
1 同僚にも受講をすすめたい	4.19
2 セミナー全体の時間は適当であった	4.31
3 期待していたとおりの内容であった	4.13
4 担当講師の説明は分かりやすかった	4.63
5 セミナーで紹介された手法を取り入れようと思う	4.20
6 新たな手法を学ぶことができた	4.33
7 参加の目的を達成できた	4.33
8 反転授業を実践する自信がついた	3.47
9 自分の担当する授業の改善すべき点があった	3.60
10 今後別のテーマのセミナーにも参加してみたい	4.47

[主な感想]

- ・反転授業にも色々な方法があることがわかって非常によかった。
- ・インストラクションとファシリテーションの違いなど、大変参考になった。

〔第2回セミナー〕

2018年9月20日 日野キャンパス (参加者 15名)

テーマ：効果的な授業設計方法を学ぼう！

(講師：大学教育センター 松田 岳士 教授)

授業をより効果的・効率的・魅力的にするための方法論であるインストラクショナルデザインの基本を学びながら、より良い授業を提供していくための授業デザインの実践方法について理解を深めた。

〔参加者へのアンケート結果抜粋 /5 段階評価〕

選択肢	平均値
1 同僚にも受講をすすめたい	4.07
2 セミナー全体の時間は適当であった	2.27
3 期待していたとおりの内容であった	3.79
4 担当講師の説明は分かりやすかった	4.33
5 セミナーで紹介された手法を取り入れようと思う	3.73
6 新たな手法を学ぶことができた	4.07
7 参加の目的を達成できた	4.00
8 反転授業を実践する自信がついた	3.47
9 自分の担当する授業の改善すべき点があった	3.73
10 今後別のテーマのセミナーにも参加してみたい	3.80

〔主な感想〕

- ・分かりやすかったが、自分で実際に行うにはまだ難しいと感じた。

〔第3回セミナー〕

2018年10月4日 荒川キャンパス (参加者 13名)

テーマ：反転授業を体験してみよう！

(講師：大学教育センター 松田 岳士 教授、

近藤 伸彦 准教授)

事前のビデオ教材の視聴と対面研修への参加をセットで行い、反転授業の模擬体験を通じて、反転授業の設計や改善のためのポイントについて理解を深めた。

〔参加者へのアンケート結果抜粋 /5 段階評価〕

選択肢	平均値
1 同僚にも受講をすすめたい	4.88
2 セミナー全体の時間は適当であった	4.11
3 期待していたとおりの内容であった	4.22
4 担当講師の説明は分かりやすかった	4.89
5 セミナーで紹介された手法を取り入れようと思う	4.56
6 新たな手法を学ぶことができた	4.56
7 参加の目的を達成できた	4.33
8 反転授業を実践する自信がついた	3.78
9 自分の担当する授業の改善すべき点があった	4.33
10 今後別のテーマのセミナーにも参加してみたい	4.89
11 事前学習として提供されたeラーニングは役立った	4.25
12 対面研修とeラーニングの内容のバランスは適切であった	4.11

〔主な感想〕

- ・とてもよい学びになった。

[第4回セミナー]

2018年12月14日 南大沢キャンパス(参加者12名)

テーマ：なぜグループディスカッション？

ーグループディスカッションを取り入れた授業デザインー

(講師：京都大学 田口 真奈 准教授)

代表的なアクティブ・ラーニングの手法の一つであるグループディスカッションを成功させるための授業デザインの方法や課題について、参加者同士の議論を通じて理解を深めた。

2018年度 首都大学東京 教育改革推進事業 学長指定課題
主催：大学教育センター / 首都大学東京FD委員会

首都大学東京

実際に活用できるアクティブ・ラーニング
手法紹介セミナーシリーズ(第4回)

なぜグループ
ディスカッション？
ーグループディスカッションを取り入れた授業デザインー

グループディスカッションは、代表的なアクティブラーニングの手法として様々な活動に組み込まれる一方で、「議論が盛り上がりがない」、「話が拡散してまとまらない」、「何が学生の身につくのか分からない」といった問題が指摘されることがあります。これらを克服して、有意義な議論を深めるには何が必要なのでしょう。このワークショップでは、ファシリテーターとしての教員の役割・グループ作り・評価方法など、ディスカッションを成功させるための授業デザインについて、参加者と一緒に考えます。

日時：2018年12月14日(金) 16:20~17:50
場所：南大沢キャンパス 6号館 402
講師：田口 真奈 氏(京都大学 高等教育研究開発推進センター 准教授)

【経歴】
大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程修了。博士(人間科学)。専門は教育工学。e-Learningを実施している大学の組織運営のあり方、ICTが教授学習過程にどのように作用するのか、ブレFD等を主な研究テーマに掲げている。ハーバード大学デジタル教育センター客員研究員、独立行政法人メディア教育開発センター准教授、総合研究大学院大学担当准教授等を経て、2008年4月より現職。

問合せ・参加申込み

- 参加対象者：首都大学東京の教員(非常勤講師も可)
- 参加費：無料
- 申込方法：下記の担当宛に「第4回ALセミナー申込み」と明記し、12月12日(水)までにメールでお申込みください。
- 申込先：首都大学東京管理部 教務課 教務企画係 担当：宮本
- MAIL: kyomu-kikaku@jmj.tmu.ac.jp
- 電話：042-677-2937(直通) 内線：1035(南大沢)

[参加者へのアンケート結果抜粋 /5段階評価]

選択肢	平均値
1 同僚にも受講をすすめたい	4.50
2 セミナー全体の時間は適当であった	4.17
3 期待していたとおりの内容であった	4.50
4 担当講師の説明は分かりやすかった	4.75
5 セミナーで紹介された手法を取り入れようと思う	4.42
6 新たな手法を学ぶことができた	4.58
7 参加の目的を達成できた	4.42
8 反転授業を実践する自信がついた	3.75
9 自分の担当する授業の改善すべき点があった	4.08
10 今後別のテーマのセミナーにも参加してみたい	4.58

[主な感想]

- ・知識教授に加えワークもありとても充実していた。
- ・ディスカッションの種類について目的別に理解することができた。

[第5回セミナー]

2019年3月5日 南大沢キャンパス(参加者19名)

テーマ：大人数授業でも無理なく双方向性を向上させる授業設計

(講師：早稲田大学 小澤 重知 准教授)

一方向的な講義になりやすい大人数授業に関して、ICT教材やミニッツペーパー等を活用した事例紹介をもとに、無理なく双方向性を向上させる授業設計のポイントについて、理解を深めた。

2018年度 首都大学東京 教育改革推進事業 学長指定課題
主催：大学教育センター / 首都大学東京FD委員会

2018年度 第5回
実際に活用できるアクティブ・ラーニング手法紹介セミナーシリーズ

2019年3月5日(火)
14:00~15:30 1号館206教室

参加者募集

大人数授業でも
無理なく双方向性を
向上させる授業設計

学生の学習意欲を引き出し、主体的にアクティブな学びを促すためには、まずは教える側が一方向的な教授方法を見直し、「インタラクティブ(双方向)」な授業をつくっていくことが必要不可欠です。大人数授業でアクティブ・ラーニングを実施するのは無理！と考えてはいませんか？ 一方向的な講義になりやすい大人数授業であっても、ミニッツペーパー、個人ワーク、ピアインストラクション、ICT教材の活用等、学生と教員との双方向性を向上させる手法は数多く存在します。本セミナーでは、大人数授業でも無理なく双方向性を向上させる手法を紹介し、授業設計のポイントについて、参加者とともに考えていきます。

講師：尾澤 重知 氏
(早稲田大学 人間科学学術院 准教授)

【講師略歴】
博士(知識科学)。1999年度慶應義塾大学環境情報学部卒。2004年北陸先端科学技術大学院大学 知能科学研究科 博士後期課程修了。愛田女子短期大学 保育科 専任講師。大分大学高等教育開発センター 准教授等を経て、2010年4月から現職。教育工学、学習支援、学習科学、協調学習、高等教育等を専門とし、現在、アクティブラーニングにおける学生の授業中の行動と学習プロセスに関する研究を行っている。

- 参加対象者：首都大学東京の教員(常勤・非常勤を問いません)
- 参加費：無料
- 申込方法：下記の担当宛に「第5回ALセミナー申込み」と明記し、3月4日(月)までに事前にメールでお申込みください。
- 申込先：南大沢キャンパス 教務課教務企画係 担当：宮本
- メール：kyomu-kikaku@jmj.tmu.ac.jp
- 電話：042-677-2937(直通) / 1035(南大沢内線)

[参加者へのアンケート結果抜粋 /5段階評価]

選択肢	平均値
1 同僚にも受講をすすめたい	4.18
2 セミナー全体の時間は適当であった	4.47
3 期待していたとおりの内容であった	3.88
4 担当講師の説明は分かりやすかった	4.76
5 セミナーで紹介された手法を取り入れようと思う	4.41
6 新たな手法を学ぶことができた	4.41
7 参加の目的を達成できた	4.12
8 双方向性を取り入れた授業を実践する自信がついた	3.29
9 自分の担当する授業の改善すべき点があった	3.88
10 今後別のテーマのセミナーにも参加してみたい	4.12

[主な感想]

- ・とても参考になり、他のセミナーにも出ようと思った。
- ・紹介された手法は極めて有益で興味深いものだった。ここまでしないとなかなか勉強してもらえない現実があった。